

ツマベニチョウだより (第9号)

◎ 鵜戸神宮にランタナとヒメノウゼンカズラの苗を植えました。

7月19日にランタナの苗70本と、ヒメノウゼンカズラの苗20本を鵜戸神宮の職員の方たちと植栽しました。(前号でアメリカノウゼンカズラと記したのは、ヒメノウゼンカズラが正当でした)。場所は先年大雨で崩壊した参道脇の斜面で、これまでに植えて戴いたランタナの苗30本と合わせて100本を50センチ間隔に植えました。ヒメノウゼンカズラもその脇に並べて植えました。これらの苗が成長したら見事な群落を作り、参詣の皆さんに喜んで貰えるものと思います。そしてランタナやヒメノウゼンカズラの花の蜜を吸いに来るツマベニチョウを写すされる、参拝客も多く見られるようになるのではないのでしょうか。

◎ 大島に植えて戴くランタナの苗80本を受け取りに来て下さいました。

前号でお知らせしました通り本月28日から30日までの3日間、南郷町の大島で「南那珂郡2市2町の中学生の合同キャンプ」が行われるのを機会に、参加者全員にランタナの苗を植えて貰うことでお約束戴いていましたが、26日の夕方、あの大雨、大風のなかを南那珂教育事務所の園田和宏様が拙宅まで苗の受け取りに来て下さいました。園田様まことに有り難うございました。

ランタナの植栽場所はアドベンチャーキャビンの下の斜面で、これらの苗が成長したら鵜戸神宮同様に見事な群落を作り、キャンプ客を始め島を訪れた人達に愛でられるほか、ツマベニチョウの成虫が大いに喜んで吸蜜に訪れることでしょう。

◎ スイゼンジナの苗を沢山贈って下さいました。

ツマベニチョウと関係はないのですが、「渡りをするチョウ」として有名なアサギマダラが好んで吸蜜に訪れるスイゼンジナの苗を欲しいと思っていましたので、春にお会いして以来何かとお世話になっている種子島開発総合センターの尾形之善様に苗の入手先をお尋ねしましたところ、早速ご自分で栽培しておられるものの苗を20本も宅急便で送って下さいました。

この株をいっぱい増やして県南地区に、鹿児島県の長崎鼻のようなマーキングの名所を作る夢がまた一つふくらみました。鹿児島市の福田晴夫様が発行されている「アサギマダラ・ニュース56号」によりますと、今年は種子島島内の4カ所で1000頭のアサギマダラにマークして放たれたとのことで、それらのチョウはすべてスイゼンジナに吸蜜にやって来たものだそうです。

(このスイゼンジナのことを県の総合農事試験場にお尋ねしましたところ、赤木康様が次のように調べて教えて下さいました。赤木様お忙しいところを有り難うございました)。

◎ スイゼンジナ(きく科)…アジア熱帯の原産で全国に分布。高さ1メートルほどになり葉の質は軟らかく肉質で、裏は茎とともに紫色。春に、ベニバナに似た黄赤色の頭花が美しい。頂上部の若葉を熱湯で約2分間ゆでて、削り節とともに豆腐の和えものにして食べるとうまい。栽培している人もある。花期4～5月…

このスイゼンジナを鹿児島県の長崎鼻では、鹿児島県の昆虫同好会の方たちが30坪位の広さに植えておられて、毎年世話をしながら花の時期にアサギマダラにマーキングされていると伺いました。スイゼンジナは熱帯産といっても長崎鼻と同じく、当県南の暖かい地方では冬場に霜よけをすれば栽培が可能ではないかと考え、然るべきところをお願いして苗を植えて戴き、鹿児島方式によるアサギマダラのマーキングが出来ればよいなと思っています。今年末までには100本程度の苗を差し上げる積もりで鋭意増やしています。ギョボクやランタナと違い、野菜と同様のある程度の手入れが必要ですが、お引き受け下さるところはないのでしょうか。